令和8年度　ゆうなんこども家庭支援センター　ポコ・ア・ポコ
事業計画

1．センターの理念

『和（チームワーク）・輪（連携）・笑（笑顔）』

和・・・多岐にわたる業務を遂行していく上でチームワークは必要不可欠。

輪・・・各関係機関との良好な関係機関を気づき連携していくことが何より大切。

笑・・・チームワーク、連携を取る事で利用者、支援者全てが笑顔に！を目標に。

令和8年度スローガン　『つなぐ・つながる・つなげる』

- 利用者の気持ちに寄り添い、繋がる。
- 利用者の想いを傾聴し、適切な関係機関に繋ぐ。
- 地域の子どもの居場所として機能していく。

2．今年度の事業内容

① 利用者支援事業（こども家庭センター型）

・実施日時　月～金　9:00～17:00

② 平生町地域子育て支援拠点事業

・実施日　月、水、木、金、土

・実施時間　月、水、木、金、第1土曜、第2土曜、第4土曜　9:00～12:00

第3土曜（こども食堂がある日）　13:00～15:00

③ ら・ら・ら　みんな食堂（こども食堂）

・実施日時　毎月第3土曜日　11：30～15：00

④ 中高生カフェ　ポコ・ア・ポコ（田布施町（保健センター）・平生町（ゆうなんこども家庭支援センター）で実施）

〈田布施町〉　・実施日時　毎月第4日曜日　11：00～16：00

・場所　田布施町保健センター

〈平 生 町〉　・実施日時　毎月第4土曜日　11：00～16：00

・場所　ゆうなんこども家庭支援センター

⑤ ひとり親家庭、生活困窮家庭支援事業

〈支援内容〉

・対象家庭を訪問し、相談支援、食糧支援を行う。

⑥ 児童育成支援拠点事業に向けた取り組み

〈目的〉

・養育環境に課題を抱える、家庭や学校に居場所のない児童等に対して、居場所を提供する。

・自宅からでて、ポコ・ア・ポコで過ごすことで、不登校児童等の生活リズムの改善や、登校にむけての身体慣らしを行う。

・児童等とその家族が抱える多様な課題に応じて、まずは、学習のサポート、進路等の相談支援、食事等の提供、生活習慣の形成を行う。

・児童等及びその家族の状況をアセスメントし、関係機関への繋ぎを行う等、個々の児童の状況に応じた支援を提供する。

・虐待を防止し、児童等の最善の利益の保障と健全な育成を図る。

〈支援内容〉

- 9 月からの実施をめざす。まずは、２日/週　9：00～13：00　からはじめる。
- 場所：ゆうなんこども家庭支援センター2 階
- 学習支援（宿題の見守り、学校の授業や進学のためのサポート等）
- 居場所としての活動の提供
- 昼食の提供　（主食：カレー、サンドイッチ等　副食：スープ、果物、ゼリー等）

3. 事業目標

【利用者支援事業（こども家庭センター型）】

・目標相談延べ件数　50人 ／ 月

【平生町地域子育て支援拠点事業】

・広場ポコアポコの目標利用者　185人 ／ 月

【地域支援】

○ ら・ら・ら みんな食堂

・親子の居場所となり、かつ相談業務につながる場所となるよう取り組んでいく。
・目標利用者数　30人／月

○ 中高生カフェ“ポコ・ア・ポコ”（田布施町・平生町）

・目標利用者数　各町 5人／月

○ ひとり親家庭、生活困窮家庭生活応援事業

・目標利用者数　5 人／月
・家庭訪問や食料支援を通して、利用者が相談しやすい関係をつくり、利用者の主訴を把握し支援していく。

○ 児童育成支援拠点事業に向けた取り組み

・目標利用者数　３人／月

4. 目標達成への取組

- 相談支援の面接、記録記載のスキルアップを図る。
- 一人親家庭、生活困窮家庭を対象に家庭訪問等を通して、困っていること等を把握し、支援方法を検討する。
- こども食堂や、中高生カフェの居場所支援事業の内容の充実を図る。
- 他機関との連携、協働して支援にあたる。

5. 今年度の個人目標

安村裕美	相談支援の面接、記録記載のスキルアップを図る。 関係機関との連携を図り、児童育成支援拠点事業に向けた取り組みを実施していく。
宮本夕子	利用者様が笑顔で集える場所になるような対応を心掛ける。
粟屋美智子	「来館してよかった。また来たい。」と利用者に思っていただけるような対応を心掛ける。 月３回のイベントを通して、季節にあった伝統行事等と関連性をもたせる企画をしていく。 安全、安心で利用していただくよう遊具の点検をする。